予　算　要　求　資　料

令和３年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名　図書館運営費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

商工労働部　情報科学芸術大学院大学　附属図書館　電話番号:0584-75-6600(内 9106)
E-mail: c21905@pref.gifu.lg.jp

１　事業費　　5,259 千円（前年度予算額：5,259 千円）

＜財源内訳＞

区　分	事業費	財源内訳							
		国　庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県　債	一　般 財　源
前年度	5,259	0	0	0	0	0	0	0	5,259
要求額	5,259	0	0	0	0	0	0	0	5,259
決定額									

２　要求内容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

大学院大学にふさわしい水準の図書資料整備により、教員学生の調査研究および教育を支え、本学設置の目的の達成に寄与する。

（２）事業内容

円滑な図書館運営のため必要な消耗品の購入､図書館システムソフトウエアの保守業務委託等を行う｡また図書館間の相互協力を円滑にするため各種団体に加盟し、研修による職員のレベルアップと利用者の利便を図る。

教員学生の調査研究のため、最新の図書・視聴覚資料、内外の新聞・雑誌を購入し提供する。

図書館システムを安定して運用するため､５年ごとに図書館システム用サーバ機器を更新し保守契約を結ぶ。

３　事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	80	国立情報学研究所研修参加旅費
需用費	4,072	和洋図書・雑誌購入費、図書館運営消耗品費
委託料	707	図書館管理ソフト保守委託料、図書館サーバ保守料
使用料	170	データベース使用料等
備品購入費	160	視聴覚資料購入費
負担金	70	日本図書館協会会費等
合計	5,259	

決定額の考え方

４　参考事項

（１）国・他県の状況

公立大学図書館

・平均経常経費（資料費以外）　14,719 千円

・平均資料費（図書のみ）　6,239 千円

（日本図書館協会調べ　平成 30 年度決算）

（２）後年度の財政負担

円滑な図書館運営のために必要な現在の額を維持する。

事　業　評　価　調　書（県単独補助金除く）

□	新規要求事業
■	継続要求事業

1　事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

大学院大学にふさわしい水準の図書資料整備により、教員・学生の調査研究および教育を支える。

図書館システム運用のために機器保守をおこない、安定したサービスを提供する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目　標	達成率
図書受入累計冊数（～R2.7）	34969 冊（H22）	43206 冊（H29）	45233 冊（R1）	45489 冊（R2.7）	47200 冊（R3）	96.4%
学生１人当たり年間貸出冊数	35.36 冊（H25）	40.0 冊（H29）	49.0 冊（R1）	10.1 冊（R2.7）	50 冊（R3）	20.2%
学外一般利用者数（のべ人数）	0 人（H20）	628 人（H25）	6781 人（R1）	6781 人（R2.7）	7500 人（R3）	90.4%

※感染症対策のため、令和２年度は学外者の利用を休止している。

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

令和２年７月末まで

・受入図書冊数　253 冊

・のべ貸出点数　652 点　のべ人数　175 人（学内外合計）

・講座「今週の一冊」　15 回開催（感染症対策のため YouTube で配信）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

学生１人当たりの貸出冊数は 49 冊と全国の公立大学平均（6.8 冊：30 年度実績・日本図書館協会調査）を大きく上回り、学生・教職員の研究活動に図書館が欠かせないものとなっている。

２　事業の評価と課題

（事業の評価）

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
（評価） ○	情報科学分野は技術の変化が激しく、最新の資料を教員・学生に提供する必要がある。また情報科学・芸術の分野に特化した専門図書館では県内唯一の一般県民も利用できる施設であり、サービス継続が求められている。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
（評価） ○	学内では図書館は学習・研究に欠かせないものとして日常的に利用されている。一般県民のニーズもあり、ソフトピア地区への移転による利便性向上により、利用が増加している。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
（評価） ○	図書館システム機器の更新により、必要性能を厳選した機器を導入し、安価な保守委託料でシステムを維持している。

（今後の課題）

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 入館者数がやや伸び悩んでいる。

（次年度の方向性）

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 学内研究の最新情報をとらえて必要な資料を収集し、資料展示や各種広報により利用促進を図る。 学内外行事等の機会を利用して、職業上の課題や学習目的で図書館利用ニーズのある一般県民に利用情報を伝える。

（他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果）

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果　など	